

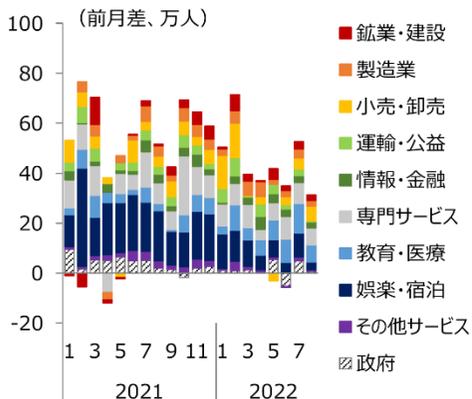
米国

雇用統計 (2022年8月)

依然堅調な雇用環境、労働需給のひっ迫は継続見込み

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 産業別の雇用者変化数



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

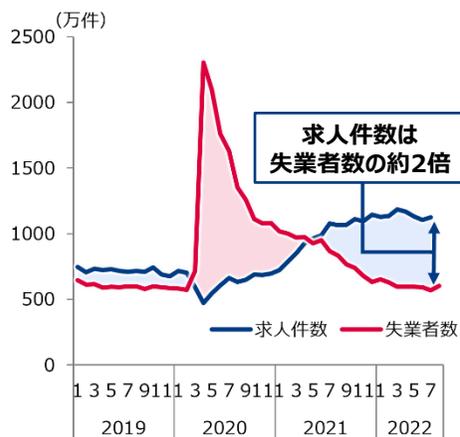
2 失業率・労働参加率



注：平均時給上昇率は前年同月比。

出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

3 求人件数・失業者数



注：求人件数は7月までの数値。

出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

4 自発的失業者の割合と賃金上昇率



注：自発的失業者の割合 = 自発的失業者 / 失業者。賃金上昇率はアトランタ連銀が推計した賃金上昇トラックの7月までの数値。

出所：米国労働省、アトランタ連銀より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 8月の非農業部門雇用者数は前月差+31.5万人と前月 (+52.6万人) から伸びは鈍化したが、市場予想を上回り高水準を維持した。産業別にみると、教育・医療、専門サービスなど、サービス部門の伸びが全体を牽引した (図表1)。
- 失業率は3.7%と前月 (3.5%) から7カ月ぶりに上昇したものの、低水準を維持している (図表2)。また、労働参加率は62.4%と22年3月に並ぶ水準へ上昇した。平均時給上昇率は前月比+0.3%と前月 (+0.5%) から鈍化したが、前年同月比では+5.2%と市場予想 (+5.0%) を上回り高い伸びが続いている。

基調判断と今後の流れ

- 利上げによる景気後退やインフレ高止まりの懸念が強まるなか、雇用環境は堅調に推移している。①雇用者数の堅調な伸び、②失業率の低水準維持、は労働需給のひっ迫の継続を示す。また、労働参加率は上昇傾向にあるものの、依然コロナ危機前を下回る水準にとどまっており、人手不足感は根強い。
- 堅調さの背景には、旺盛な労働需要がある。7月の求人件数は1124万件と8月の失業者数 (601万人) の約2倍の水準を維持している (図表3)。加えて、新規失業保険件数も8月中旬以降は減速傾向にあるなど、需要は底堅い。
- 雇用環境の先行きは、利上げによる景気減速から、労働需要は次第に減速、景気に遅行する失業率も上昇するだろうが、強い労働需要が下支え要因となり、大幅な悪化は避けられると見通す。
- また、賃金上昇率と一定の連動をみせる失業者に占める自発的失業者の割合が上昇基調を維持しており、賃金上昇圧力は継続すると見込む (図表4)。
- 今回の堅調な雇用統計を受けて、FRBは積極的な利上げを継続すると見通す。①インフレの主要因の1つである賃金上昇圧力が継続していること、②FRBのタカ派姿勢が強まっていることを鑑みると、9月中旬発表のCPIの伸び率が大幅な低下をみせない限り、FRBは0.75%ptの利上げに踏み切る可能性が高い。